

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 383 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2015.10.16（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\*発行部数 1015 部\*\*\*\*\*

□ 目次 □-----

<巻頭言> 恐怖を煽る安保法より共存共栄の道を 渡邊 博

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.136』発行されました

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

<新刊紹介>

山安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

<編集後記> 世界は無音の叫び声で溢れている

原村正樹編著『無音の叫び声——農民詩人・木村迪夫は語る』

(農文協)

---

<巻頭言> 恐怖を煽る安保法より共存共栄の道を

---

「戦争とは外交の尻拭い」だという名言がある。日本の外交のほとんどは米国の意に沿ったものだから、米国の外交の失敗を日本が尻ぬぐいさせられるのは火を見るより明らかだ。米国は第二次世界大戦以降戦争をしなかった年はほとんどなかったのではないか。

おそらく米国は世界で最も外交が下手なのだと思う。「戦争は恐怖心から生まれる」といった人がいる。地球の裏側まで資源を収奪し、世界中に製品を売りまくるといった現代の経済システムは、その競争から脱落することへの恐怖心を煽っている。米国は世界の盟主から陥落するのを恐れ、日本は後発国に追い抜かれる恐怖心に苛まれているようにしか見えない。

「戦争文法」という言葉がある。“いちいち国民の声に耳を傾けていたら国が傾く”、“選挙で選ばれた国会が決めることに反対するのは民主主義に反する”などはまさに戦争文法の典型であろう。“安保法案が通ってしまえば、国会の外で反対と叫んでいる連中は、いずれいなくなるさ”とほざいた議員だっ

たか、文化人だったかが居たが、果たしてどうか。

東京だけでも今月の13日は新宿小田急デパート前、14日成城学園駅前、15日下北沢駅前など連日新法廃止に向けての小集会が開催され、18日（日）にはSEALDsが渋谷駅前で大規模な街宣を計画している。

一方、安保法の違憲性を問う訴訟に対して東京地裁が今月8日、訴え自体が不適法として門前払いしたように、裁判による決着は限りなく難しい。最高裁が下した「裁判所は具体的な事件を離れ、抽象的に合憲性を審査する権限は有していない」（昭和27年）という判例が大きく立ちふさがっている。

しかし、このような集会やデモ、訴訟は決して無駄ではないと思う。次の選挙まで安保法に関する論議を風化させないことが重要なのである。

当時日本ではほとんど黙殺されたが、2012年6月「環境と開発のための国際連合会議」でムヒカ・ウルグアイ大統領（当時）は、“傲慢な消費を世界の70億～80億人の人ができるほどの原料がこの地球にあるのでしょうか？……マーケット経済がマーケット社会を造り、このグローバリゼーションが世界のあちこちまで原料を探し求める社会にしたのではないのでしょうか。……残酷な競争で成り立つ消費主義社会でみんなの世界を良くしていこう’というような共存共栄な議論はできるのでしょうか？”とスピーチして注目された。

残酷な経済競争で恐怖心を煽るような「安保」の道ではなく、共存共栄の道を探るような政府を私たちは持つべきではないかと思う。

渡邊 博

山崎農業研究所事務局長

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

---

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.136』発行されました

---

山崎農業研究所所報『耕 No.136』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

までご連絡ください。

《土と太陽と》(巻頭言)

誰のための被災地復興かを改めて問う◎渡邊 博

[第 150 回定例研究会] 自然災害を考える新たな視点

II 豪雨災害に備える自主防災力向上を目指した地域活動の展開◎重岡 徹

[第 151 回定例研究会] 「新基本計画」＝農政改革の車の両輪を問う

解題：農業生産現場から見た「食料・農業・農村基本計画」◎小泉浩郎

I 新「基本計画」と農政転換◎森島 賢

II EU の農政改革と農村◎市田知子

参加者の声—地域の土地と農を守る◎人見みみ子／山崎繁雄／佐々木哲美

[特別寄稿]

・惨事便乗型資本主義の行方は何か？

—格差拡大、戦争経済、独裁ガバナンスの道をひた走る日本◎西川 潤

・都会人よ、田舎へ大移動を！◎長谷川 浩

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(7)

続・百姓仕事の精神性—天地観を取り戻す道／宇根 豊

---

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

---

山崎農研編集「平成のマドンナ」シリーズ No.8(B5 版・30 ページ) が完成しました。既発行分も含め、電子版あるいは冊子で頒布しています。送料込み 500 円です。ご希望の方は [yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org) までご連絡ください。

(新刊)

No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ

栃木県那須塩原市

酪農・教育ファーム・レストラン 人見みみ子さん

(阿久津加居聞き書き)

(既刊)

No.1 都市近郊に「オアシス牧場」を

- 埼玉県上尾市 榎本美津子さん（小井川敏子聞き書き）
- No.2 世羅高原のそよ風になりたい  
広島県世羅町 井上幸枝さん（後由美子聞き書き）
- No.3 むらにまちにこどもたちにふるさとの味を伝えたい  
鳥取県鳥取市 西山徳枝さん（小泉浩郎聞き書き）
- No.4 働きやすい作業環境の改善  
徳島県 藍住地区のお母さん達（小林徳子聞き書き）
- No.5 「奥久慈の味」から広がる出会い  
茨城県大子町 齊藤キヌ子さん（臼井雅子聞き書き）
- No.6 デパートに進出した農村女性  
栃木県宇都宮市 アグリランドシティショップ（阿久津加居聞き書き）
- No.7 貧しさに学びこころ豊かに生きる  
群馬県嬭恋村 丸山みち子（丸山みち子著）
- No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ  
栃木県那須塩原市 人見みゆ子さん（阿久津加居聞き書き）

---

<新刊紹介>

山安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

---

「学生時代から歩くことが好きだった」という著者が多摩川河口から源流までの歩き継ぎを思い立ったのは70歳のとき。岡本かの子が多摩川について書いた『川』には「水源は水晶を産し、水は白水晶や紫水晶から滲み出るものと思っていた...」とあるが、水源を自分の目で確かめたいと思ったのがきっかけだった。

川沿いに1日歩いたら電車などで帰る、そして次の機会には、前回の到着点から出発する。これが「歩き継ぎ」だ。平場はともかく、源流に近づくにつれ難所も相次いだ。河口から源流までは140キロほどだが、まわり道をしなくてはならない箇所も多く、多摩川から取水される玉川上水をはじめとした古い用水や歴史遺構、神社仏閣にも足をのぼし、最終的には300キロ以上歩いたという。

わが国の水利用の歴史をみるかぎり水田開発が中心であった。ところが関東ローム台地や谷津が組み入った土地条件では、それとは異なる技術が必要とされる。台地開発の技術が従来の水田開発とどう異なるのか、水をめぐる技術が

どのように伝承されたのか。現場の事例から見直したいと著者は思った。

多摩川を水源とする用水（上水）は数多い。本書で取り上げている用水（上水）は、二ヶ領用水、六郷用水、府中用水、玉川上水、野火止用水、青山上水、千川上水、三田上水など。玉川上水に先行してつくられた二ヶ領、六郷、府中用水と玉川上水との関係や玉川上水にまつわる秘密（施工期間の短さや取水位置の確定方法）、野火止用水開通の歴史的記述（「用水開通 3 年説）」についての自説の展開、千川上水、青山上水、三田上水といった今日ではかえりみられることの少なくなった上水の水路位置の推定や、それらがかつて果たした役割の考察など、興味深い記述が随所にみられる。

本書は、河川全域で見聞し、感じたことを記した「第 I 部 多摩川源流を訪ねて」と、多摩川から取水された上水・用水について述べそれら相互の関連、人との関わり、社会の流れを見る「第 II 部 武蔵野・江戸を潤した多摩川の上水・用水」からなる。

まえがきにある「水と土、人間万歳」「水は文化を運ぶ」といった言葉に込められているのは、上水・用水の開発にかかわった職人や技術者への尊敬の念、市井の人びとや農民たちの水とともにある暮らしへの共感であり、本書の基調をなす。多摩川・上水と人びととの関係について歴史的、技術的、文化的にと重層的に描いた本書は、自然と人間関係を今日的な視点から総合的に捉えなおすうえで格好の書。

◎山安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

<http://www.amazon.co.jp/dp/4540142631>

農山漁村文化協会

A5 判・並製・199 頁

ISBN-10: 4540142631

ISBN-13: 978-4540142635

1836 円（税込み）

◎著者

安富六郎（やすとみ・ろくろう）

1932 年、東京都生まれ。東京大学農学部卒業。東京農工大学名誉教授。山崎農業研究所前所長。農学博士。著書に『環境土地利用論』（農文協、1995 年）、『身近な水の環境科学』（環境修復保全機構、2004 年）、『農地工学』（共著、

文永堂出版、2008年)、がある。

山崎農業研究所会員・田口 均

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

---

<編集後記> 世界は無音の叫び声で溢れている  
原村正樹編著『無音の叫び声—農民詩人・木村迪夫は語る』  
(農文協)

---

2015年10月12日、山形国際ドキュメンタリー映画祭の会場が1000人を超える老若男女で溢れた。原村正樹監督「長編記録映画『無音の叫び声』農民詩人 木村迪夫の新・牧野物語」の初上映会である。

『無音の叫び声』は、山形県上山市牧野在住の農民詩人、木村迪夫さん（昭和10年、1935年生まれ）の詩と生き様を通じて「東北の小さな村から、戦争と平和、そして戦後の歩みを見つめ直し、日本の未来を考える」ものだ。

この映画には兄弟ともいえるもうひとつの作品がある。単行本『無音の叫び声—農民詩人・木村迪夫は語る』（農文協）。原村監督によって精選された木村さんの詩と木村さんへのインタビューによって構成されている。

詩人をこころざしたきっかけ、農民詩の巨人・真壁仁との出会い、出稼ぎ、「ゴミ屋」の開業、減反への対応、小川プロダクションを郷里・牧野に招いての映画制作、マーシャル諸島ウェーキ島での叔父・良一の遺骨収集など、戦後の激動期を生きるなかで、彼が人生の転機に何を感じ、どう行動したかを、彼の言葉と詩で語る。そこに描かれているのは、彼の個人史であるとともに、戦後の東北農民史でもある。

本書を貫くひとつの筋に、父と叔父を戦争でなくした木村さんの反戦平和への思いがある。原村監督はあとがきで、国際政治の状況が変わったからと、この国が「戦争できる国」へと舵を切りはじめていることに強い疑問を呈しているが、反戦平和はかぎられた人のものではない。それこそ、反戦平和を求める、無音の叫び声の世界には溢れているのだとわたしは思う。

上映会に集まった1000人を超える彼ら・彼女らもまた無音の叫び声を発してい

るのではないか。

原村正樹編著『無音の叫び声——農民詩人・木村迪夫は語る』

出版 農山漁村文化協会(農文協)

判型/頁数 四六 264 ページ

定価 2,592 円 (税込)

ISBN コード 9784540151835

発行日 2015/10

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_54015183/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_54015183/)

<http://www.amazon.co.jp/dp/4540151835>

2015 年 10 月 16 日

山崎農業研究所会員・田口 均

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

---

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575 円 )

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_4540082955/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/)

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

---

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=1822182](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182)

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考 — グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

1、件名 (見出し) を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字 (機種依存文字) のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。



-----  
次回 384 号の締め切りは 10 月 26 日、発行は 10 月 29 日の予定です。

---

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 383 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2015.10.16（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*